

はやぶさ 第79号 2014年05月02日(金)

=====

発行責任者： 一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

理事長 平本 靖夫

（Captain 平本：（株）I&C・HosBiz センター）

編集責任者： 理事 石川 昌平

はやぶさのバックナンバーURL：<http://keiei-tokkunshi.jp/maga.php>

一般社団法人 経営特訓士協会

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

=====

メルマガ「はやぶさ」 第79回目の発信です、9回シリーズの第9回、エピローグです。

著者：（株）I&C・HosBiz センター

Captain 平本

タイトル：生涯現役を貫くために

人生に五計あり・2版・・・生計・身計・家計・老計・死計とは.....

***** 本題 *****

第9回 エピローグ・小野田さんの著書「生きる」の生き方と横井さんの生き方に思う・・・
そして、袴田事件の所感

◆小野田寛郎さんは、ルバング島で30年間戦闘態勢を貫いて、戦友を失いながら
一人で生き抜いた人です。著書「生きる」には、「真のラストサムライが語る

人生の教訓！」「30年間孤島で戦い続けた、不屈の日本人」とキャッチコピーが書かれています。

- ◆横井庄一さんは、グアムで28年間潜伏していました。帰国時の「恥ずかしながら帰って参りました」は、記憶している人も多いでしょう。

自助努力で生き抜く“力”と野生を去勢された今の私達に、大いなる警鐘を送ってくれていると思うのです。特に、食料や水、独りでは生きられないこと。たとえ盗もうとも人を殺そうとも、必要なモノは確保しなければ生きられないのです。ラ・ミゼラブルの世界でもあるのですね。特に、小野田さん生き方は、戦い方はゲリラ戦そのものの様相です。

- ◆このお二人は共に戦争の中での自らの生き方とおして、いかに生きるべきかのメッセージを送ってくれていると観じます。

小野田さんはプロの訓練された軍人。横井さんは兵役の民間人であることが、それぞれ島での生活環境と考働様式の違いとなっていると観じます。

お二人に共通しているのは、命令に対する絶対的服従でしょうか。使命を果たさなければ、日本には帰れない。

任務を解くには、直属上司の直接の言葉がでない信じないのですが、陸軍中野学校でスパイの訓練を受けた、小野田さんは極めて理詰めで意志強固であることが著書「生きる」に生々しく書かれていますので、詳しくは「生きる」PHP研究所をお読みいただければと存じます。

- ◆小野田さんの生き方を、「人生に五計あり」の視座で、感想を述べさせていただきます。まず感じるのは、「この母親にして、この子あり」で、厳格な躰と先祖から流れているDNA＝プロテストの魂・を強く観じます。和歌山の地域性もあるのでしょうか。

次に、中野学校での教えを忠実に守っており、上司の命令は絶対的服従なことです。少年期の教育の影響が、その後の人格形成の方向づけしすることは明らかです。教育の影響は今も変わりなく続いており、教育現場では教科書問題で激し論争になっています。

また、日韓・日中の歴史問題も埋めようのない亀裂となっている現状が有り、その修復には2世代の時間が必要なのでありましょう。

- ◆次に、上司の命令と自分との約束（誓い）の頑固さには、私にも共感する点があります。自分が尊敬し認める者以外の指示や命令は聞き入れなし従いたくないのです。

人の評判も気にはしないで、内面の良心と誓約を立てたことのみが、判断基準であり考働基準なのであります。

社会性や協調性に問題ありと評価されて孤立感はあるが、孤独を感じることは全くないのです。

いつも、貴人や方々の強い力によって守られていると観じて、時には至福さえ覚えるのです。

- ◆お二人とも緊張感のない、飼育室に飼われているような従属感や、侮蔑には馴染めなかったのでしょう。自分の世界を守り続けた人生でした。グランドデザイナーの目から見れば、「善も悪」もないのです。それは、為政者や自分の立場でそう判定しているだけです。高い立場からみれば、存在をかけて使命を果たした人こそが自分の分身なのであり、ご自分の一部と思われているのです。そのした理念のもとに生まれ、存在し生かされているのが、この世の真実なのだと信じております。

お二人とも伴侶を得られたのが何よりであります。人は一人では生きられないと小野田さんは、繰り返し述べられています。居食は多くの人々との関わり合いがなければ、手に入れることが困難であることが、お二人の体験から学ばせていただきました。

- ◆袴田事件のことを追記いたします。冤罪による死刑囚だった袴田さんは、この3月27日に釈放されました。人生に五計ありのエピローグをまとめている時のことでした。1966年から足掛け48年もの長い時が過ぎたのです。小野田さん・横井さんは戦争という人為的出来事の中でも、自分の意志の選択や行動の自由がありましたが、袴田さんは、意志も行動も奪われて、想像を絶する心身の重圧に耐えながら、支援者の励ましの中で、自らの内なる良心の強い意志と希望をもって、戦いを持続してきたのです。人間の強さと尊厳を、前者お二人とは違う次元で感じて感動と畏敬を覚えました。そして、お姉様の献身的な戦いにも同じことを覚えます。

この3人の人生の死計を想う時、魂の訓練とグランドデザインの何と巧みなことかと感じ入ります。今と云う時代の、生きる指針を与えてくださっておられるのです。

- ◆110311のその後の地域の生活の在り様をみてサバイバルのことを、強烈に

http://keiei-tokkunshi.jp/data/mls7231pdf_2_45.pdf

=====
編集後記

はやぶさのバックナンバーURL : <http://keiei-tokkunshi.jp/maga.php>

「はやぶさ」の第79号を発行しました。

本号の編集後記は平本理事長と編集責任者の石川が書きました。

・お知らせでご案内したように、5/1（木）から新事務所が指導します。
4/28（月）には、すべての荷物を運びこみ、梱包をほどこき始めました。
膨大な量なので、とりあえず、必要最低限の荷ほどこきでスタートします。
新事務所は12階。真正面にスカイツリーが見えて、見晴しが大変すばらしいので、是非お越しく下さい。

・「経営特くんゲームiin 仙台」が新緑輝く杜の都で、昭和の日の29日に開催されました。
中小企業診断士6名・小規模経営者2名の8名で、内女性がお二人の参加で、和やかに賑やかに、2卓で進めました。
練習をして、ルールや資金繰り表の付け方をまず習い、昼食後90分のトライアルゲームに取り組みました。

さすがに、記入や計算はお手の物ですので、流れがすぐに呑み込めたようで、リスクカードを引くたびに叫び声や笑いが起きて大変活気にあふれたゲーム展開でした。
ワイガヤも全員参加で話も盛り上がり、ルーレット型を経験した方の話として、特くんゲームの方がシンプルで馴染み易いこと。また、費用対効果も中小企業向けの、評価をいただきました。普及のための尽力を約束していただきました。
ありがとうございます。

10月には、認定経営特訓士講座を2日間コースで開催することに話がまとまり、

具体策を検討してご案内を作ることになりました。
東北地域の方はご期待ください。

読者の皆様から、ご要望や率直なご意見をいただきますと、発信する勇気と力が湧いてきますので、皆様からのメールを心待ちしております。よろしくお願ひします。

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

=====
一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

配信解除URL：配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

http://asu12.com/d.php?t=test&m=stone_river@hosbiz.net

=====